

令和元年度自己点検・評価にあたって

令和元年度の自己点検・評価に伴う報告書につきまして、各学部、各研究科の報告書は、それぞれの自己点検・評価委員会において作成し、大学共通部分の報告書については、当該評価項目の業務を担当する部署が当該項目について作成のうえ、各学部・各研究科の自己点検評価委員長からなる自己点検・評価委員長会議において、小職（内部質保証推進委員長）並びに報告書の作成に携わった各部署代表の職員による確認を行い、報告書を完成させました。

また、それぞれの評価項目については、昨年度と同様、大学基準協会の第3期認証評価の評価内容に基づき、評価項目ごとに「達成されていること（以下、「達成」）」及び「未達であること（以下、「未達」）」並びに「未達部分の今後の対応や課題（以下「対応」という。）」に分けて、評価内容を文書ではなく箇条書きで記載することといたしました。

なお、報告書は平成30年度の自己点検・評価報告書と並べた形で作成し、前年度の点検・評価内容と比較できるようにし、「評価内容」「自己評価」「根拠資料」におきまして、昨年度と同様の場合は青字で、変更がある場合は赤字で表記いたしました。

報告書の「自己評価」欄には以下の基準に沿って、昨年と同様に「A」「B」「C」「D」の4段階で評価しております。

※自己点検・評価基準

A：ほぼ完全にできている（90点以上）

B：合格点だが改善の余地あり（60～90点）

C：もう少しで及第点（40～60点）

D：全くできていないか抜本的な改善が必要（0～40点）

上記4段階評価のうち、A評価は「達成」、C・D評価を「未達」として取り扱うことといたしました。

完成した自己点検・評価報告書は、4名の有識者（外部評価者）による評価を受け、それぞれのお立場から貴重な提言をいただきました。

今回の自己点検・評価の結果、未達となっている評価項目及び外部評価委員の先生方からの提言を真摯に受け止めて、内部質保証推進委員会を中心に、大学の更なる改善に積極的に取り組み、本学の教育と研究の質の向上を図ってまいります

令和3年2月

内部質保証推進委員会

委員長 種 市 洋